

令和5年度 第1回丹波市総合教育会議 会議録（要約）

日時：令和5年8月3日（木）午前10時00分～午前11時20分

場所：丹波市役所山南支所3階 大会議室

出席者

市長	林 時彦
教育長	片山 則昭
教育長職務代理者	吉竹 主税
教育委員	上羽 裕樹
教育委員	中川 卯衣
副市長	細見 正敏
総務部長	太田 嘉宏
教育部長	足立 勲
教育部次長兼学校教育課長	池内 晃二
教育部学校教育課副課長	小森 真一
教育部学校教育課指導係長	平瀬 憲利
教育部社会教育・文化財課長	小畠 崇史
教育部社会教育・文化財課副課長兼文化財係長	足立 渡
教育部教育総務課長	足立 安司
教育部教育総務課総務係長	足立 真澄
まちづくり部長	福井 誠
まちづくり部市民活動課長	山内 邦彦
まちづくり部市民活動課地域協働係長	前田 大志
総務部総務課長	荒木 一
総務部総務課総務係長	黒田 浩嗣

傍聴者 1名

1 開会

太田部長

欠席者（安田真理教育委員）及び傍聴者の報告

2 市長挨拶

林市長 挨拶

3 自己紹介

4 協議事項

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進について」

(1) 概要説明

教育部 足立部長より説明

(2) 各課の取組と課題

学校教育課 平瀬係長、社会教育・文化財課 小島課長、
市民活動課 山内課長から資料に基づき説明
(質問なし)

(3) 意見交換

○片山教育長

【①-1】

- ・このコミュニティ・スクールに関することは、今に始まったことではなく、学校、家庭、地域の連携の大切さは以前からずっと言われていた。それが進んでいないからこうした取組が必要になってきていると思う。

【①-2】

- ・今各課から報告等があったが、実際の中身はそれぞれが連携して、一体となってやることが一番大事であると強く感じている。

【①-3】

- ・以前は自治会の中で大人も子供もどこに誰が居るのか地域の方は全部分かっていた。ところが最近では、人間関係が希薄になっており、分からなくなっている。これがコミュニティ・スクールを進める上での大事な部分であると思う。
- ・その中で不登校の子供に対する居場所づくり、夏休みの子供の居場所がない、お昼ご飯がないといったことも課題になってきている。

【①-4】

- ・変化の非常に激しい時代の中での子供たちの環境を前向きに考え、人間そのものをどう育てていくかということが大事になってくる。

○林市長

【②-1】

- ・地域で人を集めたり、一緒に飲食をしながら話をして、繋がりを作るような機会がコロナで少なくなり、地域の繋がりがますます減っている。地域づくりの中では大変な時期だったと思う。(①-3 関連)

【②-2】

- ・市民憲章にある「おかえり」の言葉。おかえりという言葉の中で子供は成長していくと思っている。私の地元の春日町の春日部校区でも「地域が地域の子を育てる。」というキャッチフレーズがあり、大人も子供もみんな顔を知っている。子供はおかえりの言葉をかけてもらいながら帰ってくる。そういうふうになって欲しいといつも思っている。
- ・コミュニティ・スクールも言葉は固いけれど、要するにこのおかえりと言ってもらえる。地域が子供達を守る。というのが大事なことだと思っているので、丹波市がそのように繋がって行って欲しいなと思う。
- ・それが言える人やその土壌を作る。そして、人と人との絆を作らなければいけない。(①-1～①-4 関連)

○吉竹委員

【③-1】

- ・子供を丹波市或いは地域で育てていくのに学校、家庭、地域それぞれ役割がある。ただ、学校ではすべての役割を果たすことができない。できない部分を家庭、地域にお願いし、何を補えばいいのかを考える。もう一度整理をしていく必要があると思う。
- ・学校でできないことは地域で何ができるか。地域でできないところは学校に何を頼めるか。ということをつかりやすく整理をして、地域の方、市民の方に提示をして、理解をされて、そして協力をしていただく。このように取り組んでいくことが大事だと思う。(①-1、①-2 関連)

【③-2】

- ・今は夏休みで子供たちは地域や家庭で過ごしている。ひとつの例として、毎朝のラジオ体操では、子供達が公民館に集まって体操をする。その時間にできるだけ保護者、地域の方の参加を呼びかけた。少しの間でも子供たちと接する時間を共有していくということが、地域の中で大事だと感じる。
- ・それをひと夏過ごしていけば、「あの子今日来てへんな。」「あその親来とってないなあ。」「あの子はあその孫やったのか。」というような、そういう積み重ねを地域で地道にしていくということが、地域での教育力

を高めていく。そういうことだと考えている。

- ・言い換えれば、日常的にどれだけ地域で子供に接するか。或いはどのように接していくか。という回数と質を高めていくことが、地域の教育力向上の原点になると思っている。(①-3 関連)

【③-3】

- ・子供が学校で学び、地域で学び、そして家庭で育つということがよく言われる。市長がおっしゃる「帰ってこいよ」。丹波市へ帰りたいたいと思う原点は、子供がこの学校で学んで良かった。この地域で育って良かった。ということが大きくなったいつの日かにふと思い返せるような、そういう学校、地域の教育力ということが大事なんだろうと感じる。
- ・そういう意味の中で、学校、家庭、地域がそれぞれ補っていく部分、果たしていくべき役割の部分、もう一度整理して、これを誰もが解り合って、無理のない程度に日常的に子供達に関わっていく。(②-2 関連)

【③-4】

- ・子供達が帰ってきたら、おかえりと声をかける。それがコミュニティの第一歩である。今は子供に挨拶をしようとしても不審者に間違えられると言われる。そんなことがあってはいけない。
- ・地域の子供に声をかけて不審者に間違えられないようなコミュニティ作り、地域力の改善がまず大事である。(①-3、②-2 関連)

○上羽委員

【④-1】

- ・我々の世代はまさに今子育て世代ということがあり、そういう観点でも聞かせてもらった。その中でも人材不足が課題として出てきたと思う。
- ・自治協議会にしてもコミュニティ・スクールにしても、いろいろな制度ができて組織が増えているが、地域の方にとってはその違いが分かりにくく、何が違うのかと思う部分がある。
- ・我々ぐらいの世代の方からは、組織がたくさんできるけれども核となる人があまり変わらない。そういう方がいろいろなところで活躍いただいているが、我々世代の方が、そういうところに入って行って、意見を言うのが難しい部分があることもよく耳にする。

【④-2】

- ・子供が減っていると言いながらも、子育て世代もまだ多くいるし、こういうものにどう関わっていけば良いか、どんな取組みができるかという部分を考えている方も結構おられると思う。
- ・人材不足という部分でも、いろいろな仕組みがそれぞれどういう役割が

あるのか、どういう人材に来て欲しいのか、そういう部分を説明し理解してもらっていくと、特に子育て世代の方でも意外と参加したいと思っておられると思う。

- ・特にコミュニティ・スクールという部分は、今後、非常に難しい世の中になってきている中で、一番必要になってくると感じる。

○中川委員

【5-1】

- ・上羽委員の意見に賛成で、周知不足という点はすごくあると思う。やりたいとか言いたいと思っている人がいても、どこに何を言えばいいかが分からないということもあると思うので、片山教育長がおっしゃった地域の居場所づくりということが大事になってくると思う。
- ・どの年代でも誰が行っても、受け入れてもらえる居場所がどこかにあれば、学校と繋がれない子供とかシングルで子育てをされている方等がふらっと行って、悩みを相談したときに、こういうところに行ったらいいと的確に言ってくれる人がいる。そういう居場所づくりが大事だと強く感じる。(①-3、④-1、④-2 関連)

【5-2】

- ・また、そこに关わるお世話をする側の年代、心に余裕がある高齢者の方等もやりがい等を生み出せると思う。

【5-3】

- ・居場所づくりに関して、なぜそう思ったかというところ、昨日スクールソーシャルワーカーの方から、かつて子供カフェというところに関わっておられた話を伺った。そこは子供カフェという名前でも、どの年代がいつ行ってもいい場所で、本当に地域の居場所といえる施設のようである。
- ・その施設では、私はこういうことが手伝えるよとか、こういう支援ができるよという支援の輪がどんどん広がって行って、すごく充実した場所になっており、10年以上も自立した運営をされていると伺った。
- ・そういう誰でも行けて誰もが落ちつけるような場所が、大きくなくてもいいから各小学校区に1つぐらいあればよいと思う。(④-2 関連)

【5-4】

- ・それによって、そこで出た小さな相談や問題等が学校運営協議会委員、地域学校協働活動推進員とか地域コミュニティ活動推進員の方に伝わっていけば、地域の方が何を望んでいるのか、リアルタイムにダイレクトに届くのではないかと思う。(①-3、④-2 関連)

○林市長

【⑥-1】

- ・今の人材不足の話だが、地域の夏祭りがようやく3～4年ぶりに始まって、若い子連れのお客さんが多くて驚いた。
- ・そういう人を引っ張っていく。その人達に声をかけたら、小さい子がいる若い親世代がいろいろな役に積極的に馴染んでくれると思う。
- ・だから声をかければ中川委員がおっしゃったように、やりたい人が入ってこれて、声を出せるようになると思う。(④-1、④-2、⑤-1 関連)

【⑥-2】

- ・コロナは本当に大変な状況で、皆が辛い思いをしたと思うが、コミュニティ・スクール等は、まさに地域の人材を作らなければいけないので、我々がやってきたことが間違いはなかったとなるように、自己肯定感をもって推進してほしい。(④-2、⑤-3 関連)

○山内課長

【⑦-1】

- ・上羽委員、中川委員の方からもあったように、人材不足等がある中で、本当に周知不足もあると思う。(④-2、⑤-1 関連)

【⑦-2】

- ・地域の居場所づくりについてその機能を担うのは、公民館なのかなと認識しており、今の自治協議会でもそういった公民館的な機能を持たせるような視点を持った方に、地域コミュニティ活動推進員としてお世話になりたいと考えている。(①-3、⑤-1～⑤-4 関連)

【⑦-3】

- ・公民館的な機能を持たせるような視点を持った人材を地域の中でどう掘り起こしていくか大変ではありますが、自治協議会に対し、周知をしていきたい。
- ・今の推進員がその役割を果たすことが無理であれば、今の推進員は事務に徹していただいて、公民館的な視点を持った方を別に配置していただくなど、積極的なアプローチをしていきたい。(④-2 関連)

○小島課長

【⑧-1】

- ・中川委員からお話のあった誰でも立ち寄れて、いろいろなことが言えるような場所やそういう仕組みというのは非常に大事だと思う。(⑤-1 関連)

【⑧-2】

- ・本来は自治協議会のコミュニティ活動推進員が、コーディネーターの役割を果たしていくべきところではあるが、ここが事務局化してしまっていて、そういう役割を果たしづらくなっている現状がある。
- ・役割をしっかりと分担していくことと、そこで人をどうやって発掘し、人材育成していくのかという視点を、この地域学校協働活動を通じて、地域の方が自己有用感を持てるような、そういう取組みに繋げていけば、地域づくりの方にも入っていったらもらえると思うので、更に具体的な推進が必要と感じた。（④-1、④-2、⑤-1 関連）

○池内次長

【⑨-1】

- ・家庭、地域、学校との連携と言われているが、3課とも一緒に家庭へのアプローチがあまりできないという現状がある。
- ・学校と地域、自治協議会、自治会等にはしっかりアプローチをかけているが、肝心の家庭にはどこもアプローチできてない。（①-1 関連）

【⑨-2】

- ・コロナ禍でPTA活動自体もかなり低下している状況で、それをなかなか元に戻せていない現状がある。
- ・PTAの会員に入らないという保護者の方も増えてきている現状も聞いており、そこも含めて家庭へのアプローチを充実させる必要があると感じる。子供が多様化しているのもあるが、保護者もかなり多様化してきており、その辺りは今後も連携しながら考えていきたい。

○片山教育長

【⑩-1】

- ・不登校は特に中学校で多く、4月からの中1の不登校をできるだけ減らそうとする取組みの中で、別室へ行っていた子が教室へ戻ってきたり、学校に来れなかった子が来るようになった等、登校にカウントされない場合もあり、数には表れなくても非常に改善されている状況である。
- ・家庭へのアプローチの話があったが、家庭訪問やそういったことを含めて、丹波市の先生は非常によくやっていると思う。（⑨-1 関連）

【⑩-2】

- ・市長から若い人が地域の祭りにたくさん参加していた話があったが、その中に学校の先生もよく見かけた。地域の中に入って何かしようとする学校の先生が増えてきていると感じている。それは社会教育、社会体育

といった分野でも、やっておられる方は非常に多い。(⑥-1 関連)

【⑩-3】

- ・最後に、人材不足ということがあるが、これからコミュニティ・スクールの中で熟議をするときに、子供の参加、小・中学生、高校生の参加も加えて欲しい。それは繋がりを作る上で、子供達も中に入れていくことがやはり必要だと思うので、ぜひお願いしたい。

○太田部長

【⑪-1】

- ・今日いただいた意見を踏まえながら、今まで以上に3課は連携を取ってほしい。各事業の現状と課題は発表いただいたとおりだとしても、過去から言われていた課題でもあるといえる。それが一向に解決していないという現状については、やはりこれまで取り組んできたやり方自体を何か改善していかないと、課題は解決しないと思われる。
- ・そのヒントが、今日の見解の中にあっただと思う。そこを3課で十分に連携をとり、意見交換しながら深めて欲しい。(①-2、⑥-2 関連)

5 その他

足立部長より報告

昨年度の第1回総合教育会議で、認定こども園に係る事務について、今一度、教育委員会に戻したらどうかという意見をいただいた。

まだ、結論は出ていないが、現在、関係部で調整を図っているところである。

6 閉会

太田部長